

展覧会スケジュール



	2023年4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年1月	2月	3月
古川美術館	究極と至高 名画で綴る日本の100年 4月8日(土)～6月18日(日)			四季展 7月1日～7月30日	Fアワード 8月19日～27日	新風景の会展 9月8日～10月1日	日本伝統工芸展 10月5日～10月9日	濱田樹里 日本画展 10月21日(金)～12月17日(日)		祝ひ展 1月6日(土)～2月18日(日)		美・食・旅展 3月2日(土)～4月14日(日)
爲三郎記念館	亀井勝卒寿展 原点回帰 4月8日(土)～5月21日(日)		森克彦展 / 翼果の帰郷展 6月3日(土)～7月30日(日)		産学連携展 8月19日～27日	新風景の会展 9月8日～10月1日	日本伝統工芸展 10月5日～10月9日	磯野宏夫展 10月21日(金)～12月17日(日)		季を寿く展 1月6日(土)～2月18日(日)		脈～展 3月2日(土)～4月14日(日)

古川美術館

究極と至高 名画で綴る日本の100年

令和5年4月8日(土)から6月18日(日)

個人所蔵の一品を紹介する本展は、横山大観、前田青邨、東山昶、平山柳夫、加山又造、梅原龍三郎、安井曾太郎、レオナルド・フジタなど近現代に活躍した画家を紹介します。普段目にすることのできない究極と至高の近現代絵画コレクションをお楽しみいただけます。



新風景の会 ～東海を描く

令和5年9月8日(金)から10月1日(日)

風景を描く中部地方を代表する画家たちが、会派をこえて新風景の会として集い、東海を描きます。



古川美術館所蔵品展 祝ひ 富士と桜と美人

令和6年1月6日(土)から2月18日(日)

初代館長古川爲三郎が愛したコレクションの中から、華やかな「美人画」「桜」、爲三郎が日本一と好んだ横山大観の「富士山」など新春にふさわしい名品を展覧し、爲三郎記念館創建90周年の幕開けを祝います。



爲三郎記念館

亀井勝卒寿展 原点回帰 ～藤井達吉との出会い

令和5年4月8日(土)から5月21日(日)

東海地区を代表する陶芸家「亀井勝」の名古屋では初の回顧展です。陶芸の町瀬戸で生まれ育ち、父清市氏のもとで作陶活動に入った亀井の芸術観の根底には、父清市と工芸家・藤井達吉から受け継がれた芸術工芸思想があります。本展では亀井勝が藤井達吉から受け継いだ芸術思想を初公開となる藤井達吉の書簡と共に紹介します。



瀬戸陶芸協会記念展

令和5年9月8日(金)から10月1日(日)

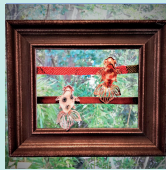
千年もの間やきもの作りを連続と続けてきた瀬戸では、様々な作家がその時代に合わせ、やきもの発展を願い、試行錯誤を繰り返してまいりました。瀬戸では全国でもいち早く陶芸家たちの育成の学校が開設し、昭和に入る頃には作家たちで構成された陶芸家集団がつけられるようになりました。なかでも瀬戸陶芸協会は歴史が古く、今年で設立86年を迎えます。その長い歴史を踏まえつつ、瀬戸陶芸家たちの作陶を通じて陶芸の今を紹介します。



古川美術館所蔵品展 創建90周年記念展 季を寿ぐ

令和6年1月6日(土)から2月18日(日)

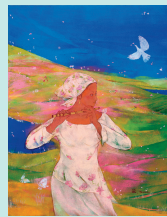
初代館長古川爲三郎が終の棲家とした爲三郎記念館創建90周年の幕開けを祝ひ、季を寿ぐ聖礼で皆様をお迎えします。また、産学連携事業として、名古屋芸術大学デザイン領域メタル&ジュエリーデザインコースで学ぶ学生と愛知の伝統工芸である七宝作専攻する学生たちが、爲三郎記念館からインスピレーションを受けて創作した独自の作品を展示します。



古川美術館所蔵品展 四季のおくりもの ～くらべてみる

令和5年7月1日(土)から7月30日(日)

万華鏡のように彩り豊かに移り変わる日本の景色は、「四季のおくりもの」です。本展では、画家が惹かれた折々の風景や草花、生き物など自然の恵みを描いた複数枚の絵で、くらべて鑑賞します。同じ画家が異なる季節を描いた作品、風景や花など類似した題材を異なる作家が描いた作品など、作家の特色がより楽しめる展覧会です。



第70回日本伝統工芸展 一名古屋展 爲三郎記念館と同時開催

令和5年10月5日(木)から10月9日(月・祝)

人間国宝が所属する日本伝統工芸展の全国巡回展の名古屋展を開催します。日本伝統工芸は日本に伝わる工芸の技を継承し、一層練磨させ、今日の生活に即した工芸品を創造する団体です。陶芸、染織、漆芸、金工、石彫、木工、人形などの多彩なジャンルの日本でも最高級の工芸の技をご紹介します。



古川美術館所蔵品展 美・食・旅

令和6年3月2日(土)から4月14日(日)

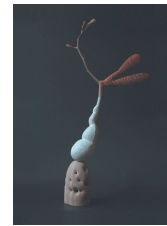
美・食・旅をテーマに、美人画、静物画、風景画を展示します。美酒を楽しむ、風景を愛で、そして芸術を満喫する、贅沢なひとときをお届けします。



彫刻家 森克彦展/ 翼果の帰郷展

令和5年6月3日(土)から7月30日(日)

愛知県立旭丘高等学校美術科で教職を務めた森克彦と、その教え子による展覧会です。森克彦は、人間や昆虫、枯葉などの自然の造形物をモチーフに、記憶のかけらや原風景を形にした詩的で趣のある作品を制作しています。教え子である多彩な芸術家たちによる「翼果の帰郷展」と、森の作品が数寄屋造りの建築空間で共鳴します。



第70回日本伝統工芸展 一名古屋展 古川美術館と同時開催

令和5年10月5日(木)から10月9日(月・祝)

人間国宝が所属する日本伝統工芸展の全国巡回展の名古屋展を開催します。日本伝統工芸は日本に伝わる工芸の技を継承し、一層練磨させ、今日の生活に即した工芸品を創造する団体です。陶芸、染織、漆芸、金工、石彫、木工、人形などの多彩なジャンルの日本でも最高級の工芸の技をご紹介します。



脈～

令和6年3月2日(土)から4月14日(日)

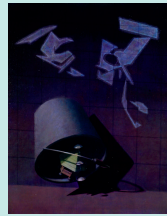
米山和子、中田ナオトら現代新進の作家たちが、爲三郎記念館を会場に、「脈～水脈、人脈、地脈、山脈」をテーマに、和紙・金属・陶芸を素材とした作品の展示をします。



第2回 公募展 古川美術館 Fアワード ～次世代につなぐ

令和5年8月19日(土)から8月27日(日)

若い世代の芸術活動を支援することを目的とした公募展の入選作品展を開催します。2023年2月から5月に募集する東海4県下(愛知・岐阜・三重・静岡)の高校生と、大学生・大学院生・各種専門学校生及び30歳以下の作家から、【高校部門】と【大学部門】にわけて厳正なる審査を実施します。その審査を経て、入選作品と受賞作品の展示をし、新進作家の台頭を促します。



濱田樹里 日本画展 ～昇華の天地～

令和5年10月21日(金)から12月17日(日)

花や自然を題材に制作する日本画家・濱田樹里。その作品は色鮮やかで力強く、花というよりは“生命力”そのものが溢れ出すような大型作品は、見る者を取り囲み、自身も自然の一部であった事を感じさせます。赤系の色を主体に金色、白や黒が奔流のように激しくうねる、そんな濱田樹里の過去作から最新作までをご紹介します。



Fアワード第1回展受賞作品展 同時開催 アートフェスタ

令和5年8月19日(土)から8月27日(日)

古川美術館で開催される公募展の入選作品展に合わせて、爲三郎記念館では、前年度に開催した第1回展で大賞を受賞した方の展覧会を開催します。同時に、アートフェスタと銘打ち、愛知立芸術大学芸術科第二コースで陶芸を専攻する学生が創作した独自の銘々皿の展示や、あいちアールブリュットの選抜作品展、文化庁助成事業のこども茶道教室を開催します。



磯野宏夫 ～生命の森 祈りの森

令和5年10月21日(金)から12月17日(日)

豊かな自然を愛し、生命の源である森を描き続けた磯野宏夫の作品を展覧いたします。自然の豊穡な輝きを描き出した生命の森の作品、東海地方の広報紙のために書き下ろした里山の風景をはじめ、代表作である数帯の森の作品、そして晩年の作品を中心に紹介します。



※ 展覧会の予定は予告なく変更されることがあります。
※ 掲載している作品はイメージです。
※ 最新の情報は下記QRコードの当館ホームページでご確認ください。
※ 本稿は2023年4月27日 改訂版です。

